

令和6年（2024年）北海道森づくり研究成果発表会について

企業支援部 普及連携グループ 品川学

森林研究本部（林業試験場・林産試験場）では、森林整備や木材利用に関する研究成果、技術、活動事例をわかりやすく紹介し、北海道における森づくりや木材利用に関する知識を深め、技術の向上を図ることを目的とした研究成果発表会を、北海道水産林務部と共催で毎年開催しています。

令和6年5月16日(木)に、かでの2・7において、平成31年以来、5年ぶりに会場での研究成果発表会を開催しました。

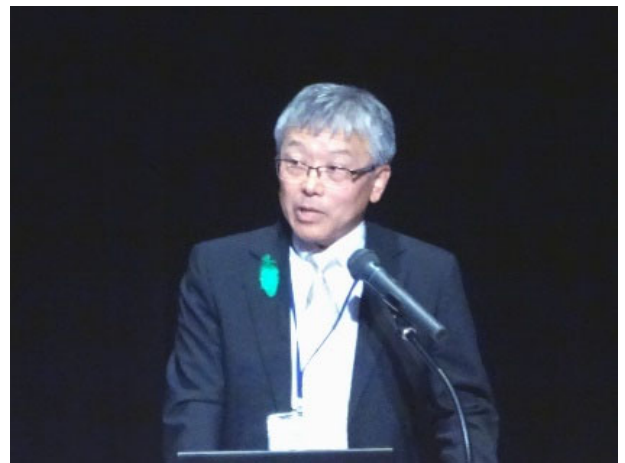
当発表会は北海道水産林務部森林海洋環境局加納

局長の開会あいさつで始まり口頭発表課題は、一般の部では、北海道森林管理局1件、北海道水産林務部2件の計3件で、森林研究本部からは、林業試験場3件、林産試験場4件の計7件で、これら全ての口頭発表は内容を記したポスター発表も併せて行いました。それぞれの口頭発表では、参加者による活発な質問が寄せられていました。

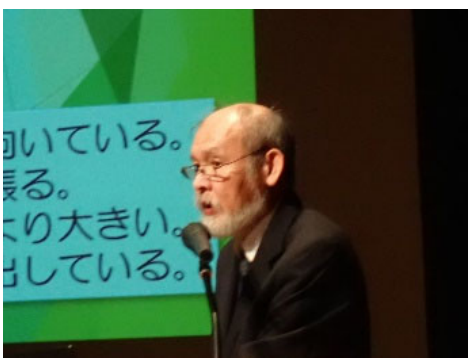
昼休み後、森林研究本部の研究概要について、森林研究本部の加藤本部長から説明があり、その後、口頭発表が再開されました。



加納局長 開会あいさつ



加藤本部長 研究概要説明



コンテナ苗植栽機械の開発
技術部 製品開発G 近藤



C/LTを土木分野で活用
するための技術開発
性能部 構造・環境G 今井



トドマツの建築材供給
拡大に向けた取組
性能部 松本



ヤナギ類樹木を活用した
きのこ栽培技術の適用拡大
利用部 微生物G 北村

＜林産試験場からの口頭発表4件＞

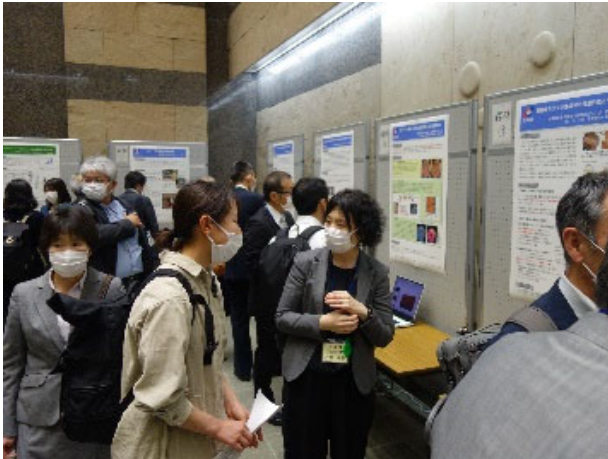
また、一般のポスター発表については、北海道森林管理局1件、北海道水産林務部2件、森林総合研究所2件、総合振興局1件の計6件、森林研究本部発表は、林業試験場6件、林産試験場16件の計22件でした。当該発表について各研究員が説明を行うコアタイムでは、会場は熱心に聴く参加者が集まり、質問も活発に行われ盛況でした。

口頭発表終了後、閉会のあいさつが森林研究本部林産試験場の川西場長から行われました。その後、二回目のコアタイムが行われ、全てのプログラムが終了となりました。参加者数は300名でした。

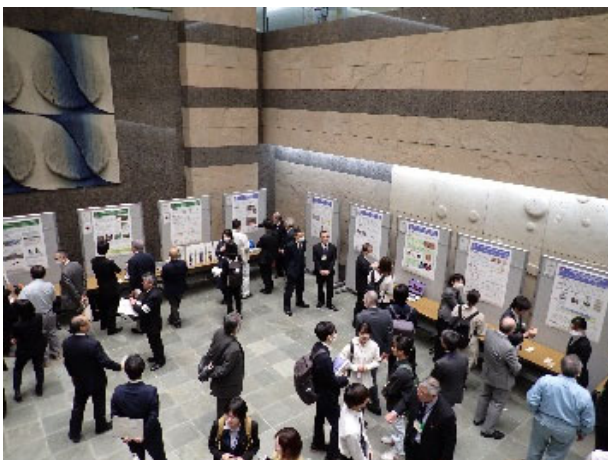
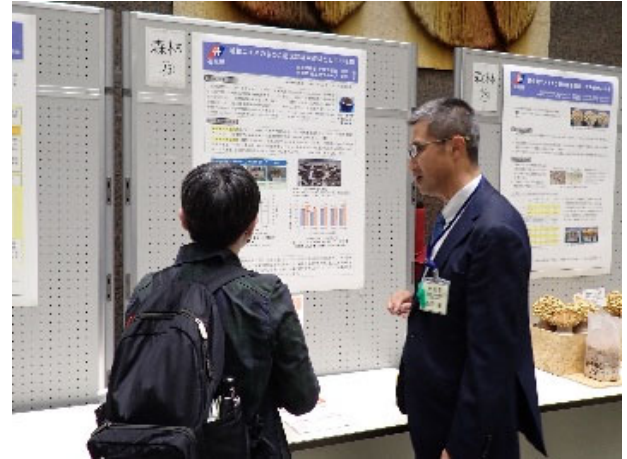
当該発表会において公開した林産試験場のポスター発表は、性能部について、本誌今月号に掲載しています。また、他部についても、今後、本誌7月号、8月号に掲載しますので、こちらもぜひご一読ください。



川西場長 閉会あいさつ



コアタイム時に説明している様子



コアタイム時のロビー全体の様子

